

第12紙 上段

しんせいてら 真盛寺

北野天満宮の東に位置し、正式名称を西方寺という。天台宗真盛派の尼寺。本尊は腰掛阿弥陀如来。真盛派の本地は近江坂本の西教寺。天正15年(1587)に催された秀吉の北野大茶会に、利休が使用したという「利休の井」がある。「真盛の衣豆」が名物。

○上七軒は描かれていない。

かうばひどの 紅梅殿

紅梅社。今出川通りの北側にあり、道真の愛した一夜飛び梅の霊を祀るとされたが、文政年中(1818~30)に北野天満宮境内に遷された。

飛び梅の話は道真の住宅(紅梅殿)の梅が、太宰府に飛んだというので(「大鏡」縁起絵巻)あるが、この社については北野社に残るかは不明。

ぢうでいかんのん

北野天満宮の近くには、三番町に観音寺があるがそこか?もしそこであれば、寺内に観音堂があり本尊の聖観音が疫病除けとして多くの人に信仰され、千人堂の異称もあったという。

(先回分追加)先回の「東向観音堂」には、本堂南に2メートルほどの石塔があり、「忌明塔」として、四十九日の忌明けに詣った。『二水記』大永2年(1522)9月8日条に「北野拝石塔、今日四十九日也、」とあり、將軍足利義晴の四十九日の仏事の代官として高師宣がこの塔に参拝しているから、室町時代以来の習俗であったことが知れる。

きんかくじ 金閣寺

左大文字山南麓に位置する臨済宗鹿苑寺。足利義満の北山殿を死後寺院とした。金閣が有名。江戸時代には見物希望者も多く、志を出せば見物ができた。鹿苑寺には散所が付されていた可能性が高い。北山散所(『北野天満宮史料』所収「目代慶世日記」永禄2年(1559)閏8月14日条)・北山唱門士(声聞師)(『大徳寺文書』所収天文18年(1549)9月28日)付「見性寺年貢覚書」の記録がある。江戸時代の北山郷には大北山・小北山・平野・松原の4村があったが、このうちの小北山には散所村が継続していたらしく、その中に神子町が存在した。

下段

石ふどう 石不動

鹿苑寺域内、東裏門近くにある不動堂か。寛文7年(1667)閏2月に開帳があった。

江戸時代初期の鹿苑寺の住職鳳林承章の日記である『隔莫記』（寛永 12 年～寛文 8 年）には、委しい記事があり、鎌倉時代の石像不動明王を祀るが、他に資料がない。

せんぼんねんぶつ 千本念仏

千本閻魔堂の大念仏狂言。千本通廬山寺上る西側、葬地であった蓮台野へ入口に位置する寺で、引接寺と称す。この寺で桜時に執行される大念仏会は有名で、室町時代中期からは本堂を舞台に仏教弘通の無言劇が演じられた。後に壬生寺が有名になるが、この寺の方が古い。諸図でも「桶取」が演じられている。

れんだいの 蓮台野

船岡山の西から紙屋川に広がる葬送の野。千本通鞍馬口に惣門を構えた上品蓮台寺があり、子院十二坊を擁していた。千本通りを北に辿れば長坂越えて丹波に至る。粗糲を担げて道を行く人は、北山から洛中に赴くのであろうか。

追記「野口の被差別民」 「北野天満宮史料」所収の徳治 2 年(1307) 3 月付の古記録に「野口御清目六郎男」と記され、これが野口河原者の初見とされるが、「野」の字は読めていない。

現在のところ「野口河原者」が文献的初見は『言継卿記』永禄 9 年（1566）11 月 20 日条で、猪皮公事銭のことで嵯峨御厨子供御人と争った記事で、野口河原者は近衛殿の御扶持を受けていたことが知れる。皮革業。

一方、千本の河原者は北野天満宮が延徳 2 年（1490）3 月に焼亡したときに、焼け跡の汚穢始末の權益回復を求めて登場する「赤」が早く、この時は別に「一本杉」の河原者も記される。

第 13 紙 上段

いまみやのおたび所 今宮の御旅所

五月十五日いまみやまつり 五月十五日今宮祭

おふみやとをり 大宮通り

今宮神社御旅所は大宮通り北詰めに位置し、所在地は若宮横町。毎年 5 月 15 日（現在は 5 月 5 日～13 日）の今宮祭りには、神輿がこの地まで渡御する。西陣を中心とした氏子の町々からは祭礼行列を出すのが習わしで、本図でも大宮通りに行くその行列が描かれる。この祭りには多くの剣鉾が出たはずであるが、未だ描かれてはいない。元禄頃、徳川綱吉の生母桂昌院が、その出身の関係でこの祭りの整備をしたというが、本図はそれ以前の様子である。この地では寛永 13 年（1636）2 月に孔雀太夫、慶安元年（1648）10 月には勸進能が行われている。

下段

しやうこくし 相国寺

禁裏を中心とした公家町の、北側に広がる臨濟宗の大寺。足利義満の発願により、

至徳2年(1385)に落慶。後水尾天皇の帰依深く、私宅を方丈として、承応3年(1654)には宝塔が完成している。

『蔭涼軒日録』長禄2年(1458)9月足利義政により相国寺門前の柳原散所が相国寺領として寄進される。

あおき遠江守やしき 青木遠江守屋敷

承応3年(1654)から寛文10年(1670)まで禁裏付を勤めた役人。役宅屋敷は相国寺の南、伏見殿の北にあった。禁裏関係の衣服を調べている。

ふしみとの御やしき 伏見殿御屋敷

相国寺の南、今出川通りに面してあった。

14紙 上段

むくげの地蔵 木槿の地蔵

上御霊前通室町西入る玄蕃町にある浄土宗西林寺に安置される地蔵尊で、天狗の示現により木槿の草むらから出現したという伝承がある。子供たちが集まって地蔵尊を祀っている。天明8年(1788)に一度焼失している。

めうかくじ 妙覚寺

豊臣秀吉の都市改造によって出来た寺之内の北側に、大きな寺地を占める日蓮宗の寺院。

めうけんじ 妙顕寺

妙覚寺の南に位置しする日蓮宗の本山。上層町衆の帰依が深かった。赤く目立つ三重の塔は、当時建立されたばかりのものであろうか。しかしこの塔も、天明8年の大火で焼けたはずである。

下段

めうれんじ 妙蓮寺

寺之内の西南を占める日蓮宗の寺院。

いわがみ 岩神

上立売通り浄福寺東入る北側の地にある巨岩。2メートル近くある。現在は民家の裏手になっているが、維新以前までは岩神神社(岩神寺)として祀られていた。乳が出ない女性に信仰された。『山城名勝志』に「西陣岩神記」が載る。

しやうごいん殿 聖護院殿

門跡寺院。現在は本山修験宗の寺院として岡崎にあるが、当時は秀吉の命により烏丸上立売御所八幡町の地に移され、延宝4年(1676)までこの地にあった。図はこの間の聖護院を描く珍しい絵画資料である。山伏姿の者が多くいる。

15紙 上段

二条殿 二条殿

相国寺の東南、伏見殿の東にあり、今出川通りに面して門を開く

八でう殿 八条殿

二条殿の今出川通りを挟んで南側、伏見殿の向かいに位置する。

かみこれう殿 上御霊殿

上御霊神社のことと思われる。上御霊神社は公家町から相国寺を挟んで北に鎮座しており、古くは下御霊社とともに鎮座していたが、下御霊社のみが遷座、上御霊社のみが旧地に留まった。

御霊社東西散所があった。「中古京師内外地図」（寛延3年〈1750〉に室町時代の京都を描いた地図）には相国寺の北東に「唱門師村」と「唱門師池」が描かれる。足利義満によって相国寺に寄進された散所らしい。上杉本洛中洛外図

下段

ほんまんじ 本満寺

寺町今出川上るの地、立本寺の北側に位置する日蓮宗の寺院。今出川新町の近衛邸内にあったが、天文8年（1539）、関白近衛尚通が現在地に移した。後奈良天皇は勅願寺とし、後に徳川家の祈願寺ともされた。

りうほん寺 立本寺

本満寺の南側に隣接してあった日蓮宗の寺院。秀吉の都市政策により、文禄年間に四条櫛笥小路より移転。宝永5年（1708）の大火で焼けるまでこの地にあった。現在は上京区仁和寺街道七本松。

しんにょとう 真如堂

現在黒谷にある真如堂は、創建以来あちこち移転しているが、天正15年（1587）秀吉の命により寺町今出川上るの地に移転。元禄6年（1693）現在地に移るまで存在した。図に描かれる本堂は、慶長11年（1606）の竣工。

16紙 上段

いしやくし 石薬師

現在も、寺町今出川を下がった梨木神社北側の道を、石薬師通りと呼ぶが、この辺りに石薬師堂があったものと思われる。

じやうげるん 浄華院

正式名称を清浄華院と呼ぶ浄土宗の寺院。寺町通りに西面する。天正13年、土御門烏丸から移転。寛文11年（1671）に焼失しているため、この図はそれ以前の姿であろう。

中ごりう 中御霊

清浄華院の廬山寺を挟んで南に位置した御霊社の御旅所。秀吉の政策により、新町

出水下るより移転したものと思われる。天明8年の大火以後町屋が増え、明治維新の時に廃された。

下段

いたはししまどのやしき 板橋志摩殿屋敷

中御霊以南や、石薬師通り以南の寺町通り西側には、御所勤めの役人や与力同心屋敷が並んでいた。板橋志摩守については不明。

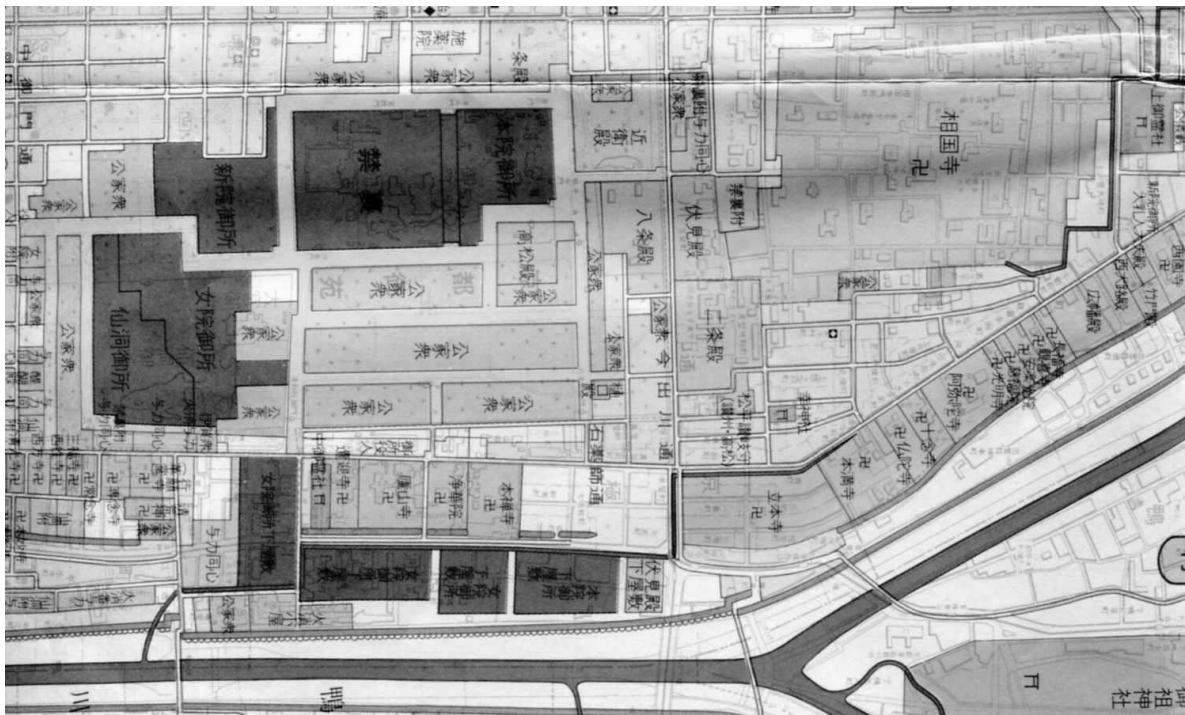
かうどう 革堂

中御霊の女院御所下屋敷などを挟んで南にあり、行願寺と称した。元々是一条小川にあり、一条革堂の名で上京町衆の町堂として栄えた。革聖と呼ばれた行円により平安時代前期に開基。西国三十三所の札所でもある。宝暦5年（1755）の大火で焼失した後に、現在地である寺町竹屋町に移った。本堂前の五輪塔は、賀茂明神の石塔と呼ばれ、行円の建立と伝承されるが、鎌倉時代の作。巡礼も描かれる。

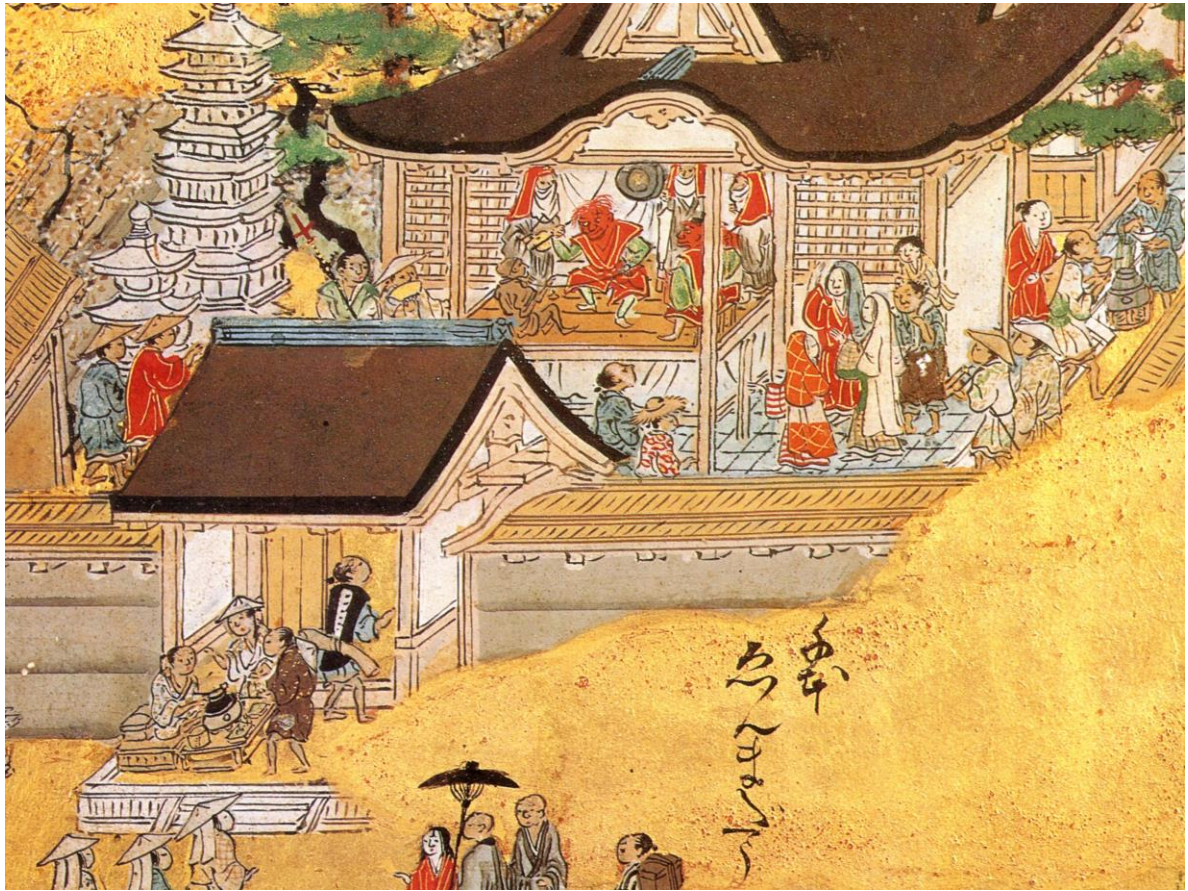
きよすのこうじん 清荒神

行願寺の東裏に位置し、正式名称を常施無畏寺と称する天台宗の寺院。摂津国の勝尾寺に關係する寺で、同所^{きよし}清の地に祀られていたが、後小松天皇の勅により、高辻堀川東に勧請。慶長5年（1600）にこの地に移され、天皇の勅願寺とされた、元禄2年（1689）には東山天皇が新たに護浄院と命名した。現在も同じ地に存続する。境内に描かれる塚は、浄蔵護摩修練の跡か。天明8年の大火で焼けている。

御所周辺拡大図



千本閻魔堂狂言

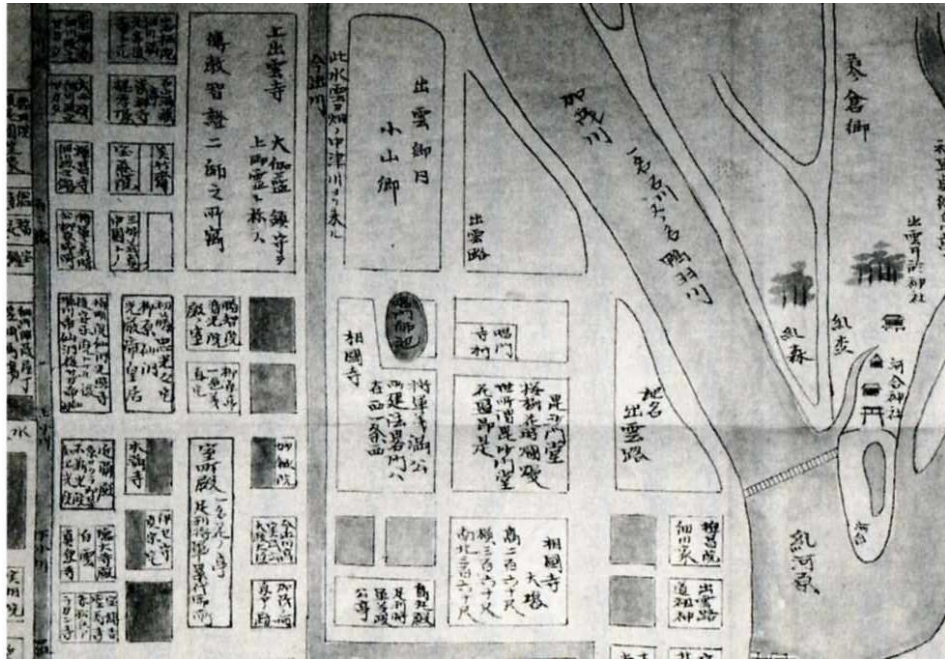


上杉本洛中洛外図屏風



「京童」 右閻魔堂狂言

東京芸大像「扇面扇図」 閻魔堂狂言



「中古京師内外地図」相国寺・上御靈社・唱門師村・唱門師池

